

「天然記念物」ヤマネを通じた環境保全活動



尾鷲市立尾鷲小学校

尾鷲市立尾鷲小学校には、大規模災害時における緊急輸送路、また、平常時におけるアクセス時間の短縮として造られた「命の道」と呼ばれる熊野尾鷲道路があります。その道路を造る際に尾鷲の山には国指定天然記念物のヤマネがいることがわかりました。人の命を守る道路を造りつつ、自然に生きる動物との共生を図るために自分たちにできることはないのか、それがこの取り組みのきっかけになります。

2016年から始まったこの取り組みは、ヤマネたちが食べるイズセンリョウといった植物を育てたり、国土交通省が設置したアニマルパスウェイの様子を観察したりすることで、その山に生きる動物についての生態を学習してきました。また、南海トラフ巨大地震が発生した際に、熊野尾鷲道路は津波浸水区域を回避しているため、防災道路としての役割があるなど、熊野尾鷲道路が何のために造られたのかも知ることができました。そして、尾鷲の山にはヤマネなどといった動物が住んでいることを多くの人に知ってもらうために、地域の人への発信や島根県の隠岐の島の小学校とオンラインで交流をしていきました。

5年間を通して、子どもたちは、自分たちの身の回りには豊かな自然があり、その中で生きている動物との共生の仕方について学習してきました。今後も、尾鷲の自然が在り続けるよう、自分たちにできることを行っています。



銚子川での自然観察



ヤマネの餌となる苗木づくり